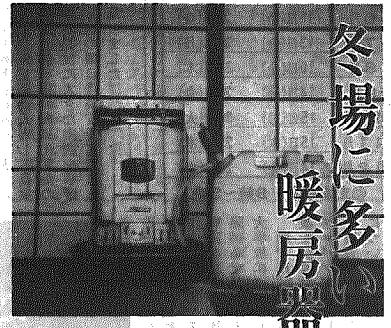


- おもな内容 —
1. 冬場に多い暖房器具の火災 (1P)
 2. 中学校南校舎建設工事始まる (2P)
 3. 税金の申告と相談はお早めに (2P)
 4. 少年の自殺を考える (特集) (3P)
 5. 新春の俳句大会開催 (4P)
 6. 村民スキー教室開く (4P)
 7. 青年団活動に、ご理解を (4P)

盆栽シリーズ 寒梅、玉ポタン



長谷川 守氏 (横越下)



冬場に多い 暖房器具の火災

2月28～3月13日
春の全国火災予防運動

をもうけ、手のとどかないようにする。

ガスストーブ

◎ 汚くなったリ、すこしでも傷みのあるホースは、すぐ取り替える。(寿命は三年が限度)
◎ ホースはなるべく短かめにし、つまづかないような場所へおく。

温風暖房器

◎ エアフィルター掃除をこまめにしよう。
(暖い込み口がゴミや物にふさがれたりすると、ストーブ内に熱がこもって大変危険です)

正しい暖房器具の使い方

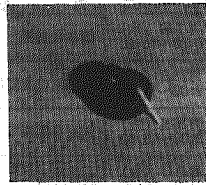
石油ストーブ

◎ ストーブの回りで洗濯物などの乾えやすい物をおかない。
◎ 一週間に一度は必ず給油の除去をし、次いでツマミのネジなどのぐらつきなどを点検をやる。
◎ 幼児のいる家庭ではストーブの回りにガード等のさく

所へおかない。
◎ ストーブに火をつけたまま石油を吸入しない。
◎ 家庭では、幼児だけを暖房器具に火をつけた部屋で遊ばせないでください。遊びに夢中になった幼児がストーブを倒したり、燃える物をストーブに投げこんだりして、火災になりやすい命を失った例もります。

たばこが火災原因のトップ

五十二年中のたばこによる火災は、全国で九千六十九件発生し、損害額は約百二十一億円と、前年の五十一年に比べて十四億円も増えています。さて、愛煙家は全国で約三千五百万人。つまり、国民の三人に一人が、一日当たり男性約二十四本、女性十六本合計計すると一日に全国で約八億二千五百万本のたばこが吸われています。



出火原因で最も多いのは、たばこの不始末で、昭和三十三年以来連続十八年間、件数増え続けています。

たばこという、火元は喫煙者とともに移動し、生活のあらゆる場で一歩間違えば出火の原因になる危険性を秘めています。
たばこは、火源としては小さいが、燃焼温度は七〇〇度から八〇〇度です。私たちの身の回りには、この温度以下で着火する可燃物がたくさんあります。
たばこを吸う方は、いま一度正しい喫煙管理の実行を心がけて下さい。

今年には国際児童年である。御承知の通り、国際連合は一九七六年の第三十一回の総会において、児童権利宣言採択二十周年を記念して決議した事であり、その主旨は、児童が幸福な生活を送り、かつ自己と社会の福祉のためにその基本的な権利と自由を享有することが出来る様にすることを十ヶ条の権利宣言を行い、両親、各個人団体、地方行政機関、及び政府に対してこれら十ヶ条の権利を認め、守る事に努力することを要請したものである。高層教育の中で、余りにも豊かな環境の中で育っている児童に対して、今の子供は「体力が弱っている、テレビの膨大な量を眺めているために思考力がおとろえた、自愛、非行問題がよえた。」と語る者がこれら非常に問題である。これ(国際児童年)を機会に大人にとって子供に対する教育とは何か?と反省するべき機会である。児童が親と子供の間に於いてお金とか、物とかを媒体とした関係が出来てくる。彼等が、その点一人一人の親の家庭にも問題があり、大人が子供に対して、もっともっと責任を感じ、子供が躰がなれないばかりでなく、親も又子供を育てていない親も増える。自分の子供の教育に対して学校(先生)ばかりでなく、生活の中で折目正しくキチンとすることを現代では特に重要であると願います。その点学校のPTAなどはどうでしょうか。子供は親、教師、世界の全てであり、そして、親の目覚めを見ておりません。親は又子供の鏡であらねばなりません。今の子供は「どうも。」という前に、これを機会に親も現代の生活を環境をかえりて反省すべき点を直し、自分の子供に対する教育に対して自分が良いと思う家庭教師に相談していただくことも社会教育の必要なゆえんではないでしょうか。(編集)